

## 療養病床の廃止・削減の中止等を求める意見書

政府は6月14日、国会で「医療制度改革関連法」を成立させ、全国にある38万床の療養病床を15万床へと大幅に削減する療養病床の再編計画を決めました。その結果、北海道では、全国で1番多い介護保険適用の療養病床（約9千床）が廃止され、医療保険適用の療養病床（約2万床）も大幅に削減されます。

現在、全国では医療保険及び介護保険の療養病床は満床の上、特別養護老人ホームの待機者は34万人もいます。

このような状況下、入院医療と介護施設の実態を無視し、受け皿の整備もないままに強行しようとしている療養病床の削減・廃止は、医療や介護を必要とする患者から治療する機会を奪い、「医療・介護難民」を生み出すことは明らかです。また「過疎・広域・寒冷」という北海道特有の地域事情を全く無視した地方切捨ての政策です。

つきまして、下記の事項を強く要望します。

### 記

- 1 療養病床の削減計画の中止を求める。
- 2 地域住民が安心して暮らせるように、介護保険事業計画を見直し、医療、介護、福祉制度や施設等の基盤を充実させること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

平成18年9月15日

名 寄 市 議 会